

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501411		
法人名	社会医療法人 共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川北A棟		
所在地	札幌市白石区川北2条1丁目7-8		
自己評価作成日	令和3年9月13日	評価結果市町村受理日	令和3年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501411-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・母体である病院と医療連携を図っており、訪問看護の利用を受けながら安心して過ごして頂く事が出来ています。また、デイケアを利用しながら活動的に過ごす事が出来ています。

・敷地内には畑があり、花や野菜を植えて一緒に手入れや収穫をして、その野菜を食事に利用する事で話題としながら楽しんで食事をして頂いています。

・現在はコロナ禍の為に実施できていませんが、町内会の行事に参加したり、「ふるさと会」主催の丁稚奉公を受け入れたりして地域との交流を図っています。

・外出行事に制限が出来た為、ホーム内での誕生会等の行事の際にレクリエーションを加えて楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「まいホーム川北」は、精神科を主とする医療機関を母体とした3ユニット27名定員のグループホームである。通常時も、コロナ禍の現在も、一貫して理念である「そばにいるだけで癒される環境」作りに努力している。ベテラン職員も多く、全職員が足並みを揃えてチームケアに臨んでおり、一人ひとりの望ましい生活環境を整え、認知症の特性を熟知した安定感ある支援を行っている。日々利用者が癒され、残存機能を閉塞させないよう介護計画作成に係る検討や評価は詳細に行い、多種多様なマニュアルによる勉強会でより良い支援を模索している。デイケアの活用や室内イベントの工夫、美味しく食べることから、健康保持や心身機能の維持とできる限り低下がゆっくり進むよう、細心の配慮に努めている。畑や花壇作り、桜見物、年中行事の食事などで利用者の和やかな笑顔を誘っている。病院の通院支援や重度化や終末期の入院対応など、安心につながる支援の仕組みがある。また、防災関連では避難訓練に取り組む真摯な姿勢が特筆され、地域や母体法人との連携体制を築いている。当地に開設して19年、ホーム祭りでは近隣の人達と一緒に出店やよさこいを楽しんだり、小、中学生とのふれあい交流も年数回行われ、活発かつ良好な地域交流の土壌を育ててきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を提示しており、職員は日々目にする事ができ、理念を共有し実践に繋げている。また、毎年ユニットとしての目標を立て実践している。	5項目の運営理念を全職員で共有し、その実践のために各ユニットで年度目標を策定している。今年度はコロナ禍の現状を踏まえ、感染症対策の強化、利用者とのコミュニケーションや体調面を重視などの具体的な目標を掲げ、職員間で方向性を統一して日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との関わりを持つのは難しく行事参加は出来ていないが、落ち着いたら例年通りゴミ拾いやお祭り等の参加を予定している。	通常であれば地域行事や事業所の祭りで地域住民と触れ合う機会が多い。コロナ禍では各種交流機会は自粛しているが、地域の丁稚奉公活動で来訪がある中学生のインタビューに答えたり、保育園児から励ましのボードを頂いたりと交流が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、毎年実施していた丁稚奉公や職業体験等行えていないが、落ち着けば再開したいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、構成員全員が集まったの会議は出来ていない。けれど、事前に連絡を取り合い報告事項や議題提起の確認を取り職員のみで開催し、議事録を送付し報告していた。議事録はご家族にも送付している。	地域会館を利用し、多彩な協カメンバーで開催しているが、現在は書面会議として事業所内で実施している。事業所の現状を分かりやすく報告するとともに、事前にメンバーから意見を伺い、継続的な理解が維持できるよう連絡を取り合っている。毎回家族には議事録を送付し事業所の運営状況を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	職員が直接連絡を取り合う事は無かったが、管理者からは必要時連絡を取り合い情報提供は行っていた。	市や区の介護保険課、保護課等の職員とは積極的な関係作りに努め、利用者の安定した生活支援に向けて協働している。包括支援センター主催の会議や勉強会はオンラインで参加し、サービスの質向上に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、マニュアルを基に確認し定期的に身体拘束廃止委員会や研修を行い、正しい認識を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指針を整備し、3カ月毎に委員会を開催、運営推進会議にも報告し、身体拘束をしないケアを実践している。勉強会ではマニュアルや各種資料をもとに基本的理解を求め、理解度を確認しながら、職員の意識啓発と知識の向上を目指している。不適切ケアやスピーチロックにも十分配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は研修参加できていないがマニュアルを参考にして、職員間で情報を共有し虐待防止に努める事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が学ぶ機会はないが、今後学ぶ機会を持つことができればと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍の為ホーム内を十分に見学出来る機会を作ることは難しかったが、玄関先で、また不足部分は電話対応する等して十分に説明をし理解して頂けるように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、入居者とは普段の会話から要望を汲み取り把握するように努め、家族については、現在コロナ禍の為、面会に制限がある事から電話や手紙で近況報告を行い意見を求める等している。	利用者に意向や要望は日々聞き取り、買い物代行などできる範囲で対応している。家族には、毎月ユニット便りのほか、定期的に身体状況や受診結果などを報告している。家族の意向を検討し、コロナ禍での面会は本人の顔が見られるよう対応を工夫したり、オンライン活用については法人本部に上申している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者に直接提案する機会はないが、管理者を通しての意見や提案をしている。	現在全体会議ができないが、ユニットごとに管理者出席の会議や勉強会を設けている。職員相互に困難事項や不満を話し合える関係性でもあり、意見等は随時吸い上げる体制である。コロナ禍によるメンタルヘルスへの取り組みは、法人発信でのストレスチェックや急な欠員にも対応できる人員配置など、法人全体で協力体制が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休は希望が取り入れてもらえる状況にあり、時間外の勤務もほとんどなく、働きやすい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、これまでのような研修の機会（外部研修や法人開催の勉強会）はなかったが、外部研修を受ける体制はある。またホーム内でも日程をずらしながらの研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	過去に他のグループホームへ見学に行った事はあるが、コロナ禍のため機会が作れていない。けれど法人内の様々な業種と連絡を取る等してサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族・担当のケアマネージャーから情報を集め、本人を知る様に努め、安心して入居して頂ける様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談などで要望を聞き、その後も面会時等に話しやすい機会作りをして信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族・担当のケアマネージャーから情報を頂き介護状況を知り、希望を聞いたりして必要な支援をできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることや、やりたいことを実行できるよう職員間で情報共有し、共に行うことで支え合う関係を築く様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りなどで、本人に関する状況を伝え共有し、家族にも協力を求める等して共に本人を支えていく関係を築く様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で自由な外出や面会が制限されている。が、窓越しの面会や、電話で話す機会を作るなどして馴染みの関係が途切れない様に努めている。	家族をはじめ、関係の深い友人や知人の受け入れ態勢は良好であり、現在は電話や手紙により関係が途切れないよう支援している。感染状況を見極めつつ家族との面会は窓越しで行えるよう対策を講じ、馴染みの美容室の利用は訪問美容室に変更している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が円滑に行くように配慮し、孤立してしまう事が無いように、職員が間に入り話題を提供する等して良い関係を構築出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の様子は把握できていないが、家族から近況報告のお手紙をいただいたり、トロイカ病院に移られた場合については病院側から現状を伝え聞く機会があった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望に添える様、日常会話や暮らしの中からそれぞれの想いを汲み取り、それに沿う事が出来る様努めている。	入居直後は積極的に家族から情報を聞くようにしている。本人の語る言葉を大切に、思いの把握に努めている。困難な場合もあるが、選択しやすい問いかけや表情、普段の様子から、できる限り本人の思いに寄り添えるよう話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を頂いたり、本人との会話やケアマネージャーからの情報、アセスメントシートなどの情報を基にして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を毎日個人記録として記録して残し、状態の変化や現状の把握が出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では毎月の会議でモニタリング話し合いをし、家族とは電話や手紙を通じて状況報告を行いながら意向確認を行い、本人の状況に即した介護計画を作成するように努めている。	利用者の様子や計画の実施状況は、毎日具体的に記録し、毎月のモニタリングで現状確認と共有を図っている。3～6ヶ月の介護計画の見直し時には担当職員とケアマネが中心となって計画を立案し、利用者の思いを主に、家族や関係者の意向を得ている。コロナ禍では、できる限り身体面、認知面の機能維持、低下を先送りできるよう計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、その際の様子等を記録に記載している。また、個人記録に記載する内容以外の伝達事項等については連絡ノートを作成し、それを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族にも協力して頂きながら、本人の希望に沿えるような支援が出来る様努めているが、コロナ禍の為に円滑な支援を行う事が難しい状況となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為、行事に参加する等地域との交流を図る事が出来ていない。が、感染対策のもとで訪問美容の利用をしている。また札幌市のオムツサービスを利用する体制もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながら、本人や家族が希望する病院を受診出来る様支援しており、受診時には詳細な状況を医師に確認していただけるよう受診表を作成し適切な医療を受けられるように支援している。	以前からのかかりつけ医である内科や脳外科等に通院している利用者も多く、家族と共に受診支援を行っている。母体法人である協力医療機関の受診や月1～2回の訪問看護、ホーム長が看護師であることも、利用者にとって安心できる医療支援体制になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の訪問看護を利用し病院との連携がとれている。また、管理者が看護師なので気付いた事は報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書を作成し、情報提供を行っており、相談員と連絡を取り合い早期に退院できる様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の方針として、ホームでの看取りは行っていないが、重度化に対して入居時に家族に説明し理解して頂いている。また、週末期に対しては家族と状況を共有し早い段階から方向性を確認して行くように努めている。	契約時に指針により重度化や終末期の対応を説明し、事業所での生活が困難になった場合は母体病院への転院支援としている。利用者の意向は日常の中でさりげなく聴取し、変化の各段階で家族や関係者間で方針を共有している。職員はできる限りの重度化対応に努めており、改めて勉強会を設けたい意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は研修等があり学ぶ機会があったが、現在は十分には行えていないが、AEDの設置や感染対策の備品を設置しており、緊急時対応マニュアルを確認する等して事故や急変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って、年に数回、入居者も交えての火災、地震、水害等の避難訓練を行っている。また、非常食を備蓄し、災害時用品の備蓄も少しずつ増やしている。	年3回の避難訓練を計画し、火災や地震、水害時想定訓練を実施している。訓練後の反省は次回の課題にして取り組んでいる。広域避難場所のほか、水害時は法人施設の協力を得ている。効率的な非常食の備蓄や各種備品類、暖房機器も準備している。	災害時における各種マニュアルを整備し、地域協力体制も構築の上、防災強化を図っている。今後は、自然災害時における対策に加えて事業継続計画の作成への取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重を心がけた声掛けを行っているが、家族から呼ばれている呼称を喜ばれる場合もある為、一人ひとりに合った声掛けに努めている。またプライバシーを配慮した声掛け・介助をする様に気を付けている。	法人内研修でより良い接遇を学んでいる。利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねないケアに配慮しており、何気ない言葉等についても意識化できるように努めており、一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの希望に耳を傾け、表現するのが難しい場合には、日常の様子等から思いを汲み取り、一方的な支援にならない様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、出来るだけ本人の希望に沿って1日を過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し髪型を整えている。また、好みの服装で過ごせる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、現在は入居者と一緒に準備などは行っていない。けれど、ホームの畑と一緒に野菜を収穫したり、その野菜を食事に利用したりして楽しんでいる。また個々の好き嫌いを把握し、食事が楽しみになるよう支援している。	ユニット毎に別献立で、利用者の嗜好や好みを反映しやすく、畑の野菜も取り入れて栄養バランス良い食事を提供している。誕生会は本人の好きな料理で祝い、年中行事の際の食事や、普段と違ったハンバーガーなどジャンクフードも利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの食事面での指示や体調・体重などを基にその方の状態に応じた分量の提供に努めている。食事、水分量を毎日記録に残し一日を通して十分な量を摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の義歯洗浄剤の使用と歯磨きの声掛け・見守りを行っている。出来ない場合は職員が介助を行い、必要時は定期的に歯科受診できるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで座位を保つことが困難な一部の入居者を除き、トイレで排泄していただけるよう支援している。また、排泄チェックを行い、声掛け・トイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、個別のチェック表で失敗の軽減につなげている。誘導時の声掛けや排泄介助時、また失敗時は速やかにシャワー浴をするなど、プライドや羞恥心に十分配慮した支援をしている。夜間はベッド上の介助も含めて本人の安楽な支援を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、乳製品や野菜等をメニューに取り入れれたり、水分量を調整する等の対応を行っているが、身体能力の低下から運動する事が難しかったり、動くことを拒否される場合もあり適切な対応が出来るとは言い難い。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人と相談したり、本人の希望に応じた時間に入浴が出来る様支援しているが、就寝前の入浴等には対応出来ず、全てが出来ているわけではない。	午前、午後の時間帯や回数などは個々の希望を聞き最低週2回の入浴を支援している。デイケアで入浴する利用者もいる。拒む場合は多くないが、本人の気持ちを受けとめ上手に声掛けし、利用者が笑顔になることを目安に心地よく入浴できるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり就寝時間が異なっていたり昼寝をしたりと本人のペースで眠れる様支援している。利用者によってはセンサーを利用し転倒しないよう見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服用している薬については情報の共有を職員間で図っており、体調等の変化がないか注意して観察している。個人ファイルを作成しており、服薬状況の確認ができるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、したいことを把握し、できる機会を作るようにして気分転換に繋がるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、希望に沿った外出を行う事が出来ていない。けれど、気分転換も兼ねてホーム周辺の散歩やテラス等で外気浴を行っている。落ち着けば、以前のように外出行事や家族との外出を再開したいと考えている。	恒例の年4～5回の外出行事は中止しているが、近隣の散歩で緑を楽しんだり、病院受診のついでに車窓から公園の桜見物をしている。畑や花壇には野菜や花々が植えられ、テラスから成長を眺める外気浴も気分転換の一つになっている。また、一部の人ではあるが、法人病院のデイケアに通う事も外出支援となり機能維持に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失などの可能性がある為、基本はホームで預かる事になっているが、自分でお財布を持つことで安心感を持って頂いている入居者もおり、職員はお金を持つ事の大切さを理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば気軽にホームの電話を使用して頂けるようにしている。その際電話番号の間違いが無いよう確認したり、番号を押すなど手伝いをしている。手紙に関しては、毎月写真を載せる等し工夫している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食卓では、自由に過ごして頂ける様スペースを確保している。壁には季節を感じられるよう季節ごとに入居者によって頂いた装飾を施している。温・湿度計を配置し、テレビの音量や室内の明るさ等、過ごしやすい様に調節するように配慮している。場所がわかりやすい様に目線の高さに貼り紙をするなど工夫している。	明るくゆったりとした共用空間には、利用者が落ち着いて生活しやすい配置で椅子やソファが置かれてある。各ユニットで室内装飾を工夫しており、大きな木の枝をモチーフに四季に合わせて桜や青菜、紅葉、雪だるまを貼り付け、季節感を演出している。エアコンや空気清浄器、加湿器を設置して温、湿度、換気等に配慮し、また、利用者にとって気になる刺激には、その都度気を付けて対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で談話するスペースは提供出来ているが、共有空間で一人になれる場所は確保出来ていない為テーブルの端を使用して頂いたり、椅子の向きを変える等工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が安全に過ごせる様な配置を心掛け、馴染みのある家具や持ち物を設置して本人が居心地良く過ごせる様に支援している。	使い慣れた家具などのほか、自作の洋服や刺し子のタベストリーなども持参してもらい、その人らしい安心できる居室を作っている。タオルで冬場の乾燥対策を取ったり、転倒防止に体感センサーを使用する場合もあり、本人の状況に即して安全に快適に過ごせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、安全に歩行できるように、手摺を多く設置している。自室扉に名前を貼り迷うことなく自室に行けるように工夫している。		